

# 特別支援だより

令和元年度

第2回特別支援教育推進連絡協議会テーマ

## 「特別支援教育における中・高連携 及びネットワーク整備」

「特別支援教育における中・高連携ネットワーク整備」のテーマのもと、特別支援教育推進連絡協議会が令和元年12月10日に開催され、様々な立場の方々に参加していただきました。前半は4名の先生方から、中・高の引継ぎや各学校での特別支援教育の取組の実際について御提案いただきました。後半はグループ別に中学校と高等学校等の引継ぎの成果と課題、引継いだ内容を校内で活用するための校内支援体制の整備等についての協議を行いました。その協議の中では高等学校における一人一人に応じた特別支援教育の取組が紹介され、管内の多くの高等学校においても特別支援教育が推進されていることを実感することができました。特別な支援が必要な生徒への支援体制が整備されていくにつれ、中学校との連携や情報の引継ぎの重要性、有効性も増してきています。

次年度以降の事務所の取組として【通常の学級に在籍する「特別な教育的支援が必要と思われる生徒」への『個別の教育支援計画』の作成活用を推進し、有効な支援の引継ぎを目指す】ことを考えていきたいと思えます。本協議会の内容を以下に示します。

## 1 提案について

### (1) 木更津市立木更津第三中学校 『高等学校との連携に係る中学校の取組について』

**進路指導・キャリア教育のポイント**

・生徒自身の自己理解（体験や経験）

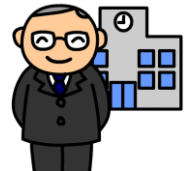
**【トップダウンとボトムアップの視点】**

・担任による進路に関する情報収集、情報提供

**引継ぎについて**

対象生徒：特別な教育的支援が必要な生徒、引継ぎに関する保護者の同意がある生徒

引継ぎ資料：中高連携シート、個別の教育支援計画、個別の指導計画、サポートファイル等



### (2) 千葉県立千葉大宮高等学校 『中学校との連携に係る高等学校の取組について』

**もうひと手間の指導** 【不登校、引きこもり経験のある生徒にとって、スクーリングは非日常の場である。】

・生徒への対応は常に丁寧に、慎重に。 ・生徒のニーズを行動や何気ない日常会話からキャッチする。  
・生徒に不公平感をもたせないように心掛ける。 ・特に注意すべき情報を共有し、対応に生かす。

**引継ぎの新たな視点**

・生徒の状況やニーズの的確な把握が重要。 ・多様な経歴、過去を捨ててきた生徒の存在を忘れない。

### (3) 千葉県立楨の実特別支援学校 『中学校との連携に係る特別支援学校高等部の取組について』

**連携（引継ぎ）の目的**

入学後の指導支援の参考 【新しい環境でも自分らしく力を発揮するため】

**連携（引継ぎ）までの経緯**

学校見学、教育相談、体験学習等の新しい環境での適応

**連携（引継ぎ）の内容**

【共通理解こそ生徒が戸惑わない指導支援への道】

・実態（日常生活の様子 学習面 行動面）

・家庭環境（家族構成 支援機関の利用）

・配慮事項（健康面 障害特性 不適切な行動）

### (4) 千葉県立袖ヶ浦高等学校 『高等学校における「通級による指導」の取組について』

・自校の2、3学年の生徒に対して、自立活動の内容（コミュニケーション、人間関係の形成等）を実施している。1学年は、入学許可候補者説明会で合理的配慮とともに、通級による指導についての説明をしている。1年間かけて、2学年以降の通級による指導の実施に向けた実態把握に努めている。

・「通級による指導」までの流れ

- ① 専任の特別支援教育コーディネーターが校内を巡回し、気になる生徒の情報を収集する。
- ② 特別支援教育会議や共有フォルダを活用し、全職員による情報収集、共通理解を進める。
- ③ 本人、保護者との合意形成後、「通級による指導」を実施する。

## 2 グループ協議 ～グループ協議記録・アンケートより～

### ①中学校から高等学校への引継ぎについて

#### ○引き継ぐ時期

- ・合格決定後 ・管理職をとおして、連絡を取り、高等学校で入学前に行った。
- ・入学許可候補者説明会のとき（保護者から） ・1年生の学級編成前に行っている。
- ・高等学校側が引継ぎの日程を呼びかけて実施している。



#### ○引き継ぎたい内容

- ・得手、不得手の確認
- ・本人のできることに視点を置いた引継ぎ資料
- ・「どのように対応すればできるか」という方法
- ・障害に対する配慮（片耳難聴→座席の位置）
- ・どのような時にパニックになるのか、どうすれば落ち着くのか。

#### ○その他、引継ぎについての高等学校の取組、声

- ・入学決定後は心配なことは何でも中学校から伝えてほしい。特に、精神的な面で支援の必要な生徒については教えてほしい。引継ぎが事前に実施できた生徒は高等学校の生活に適応できるケースが多い。
- ・引継ぎ時、「できること」「苦手なこと」のチェックリスト（S S Wと作成した）を面談時に話し合いながら中学校の担当に取り組んでもらっている。個別のファイルを作成している。6月の中学校訪問時に気になる生徒についてチェックしてもらう。
- ・高校の授業公開に中学校の先生が参観することで、卒業生の様子を知ることができ、情報提供の必要性も感じることができる。

#### ●課題

- ・保護者の「同意がない」ことにより、子供の情報が高等学校に送られないことがある。
  - 中学校から引継ぎをすることのメリットを伝える。
  - 引継ぎが全てではない。過去（中学校）の情報をもっていくことがすべて必要とは言えない。
  - 高等学校での特別支援教育について、保護者への理解啓発が必要である。
- ・中学校では見逃されてきたであろうグレーゾーンと思われる生徒（精神疾患、小学校の時に特別支援学級在籍も含める）への指導・支援が課題。
- ・特別支援学級からの引継ぎ情報はあがるが、通常の学級に在籍した生徒についての情報はほとんどない。
  - 中学校側の個別の教育支援計画、個別の指導計画が引き継がれない。
  - 高等学校側は、気になったら躊躇なく中学校と連絡を取っていく。
- ・生徒指導連絡協議会だけでは特別な支援が必要な生徒の情報共有、引継ぎが十分でない。

### ②引継ぎを生かす校内支援体制づくり等

- ・年度末に引き継いだ内容について、入学式後の学年会議で学年職員に情報共有している。個別の指導計画の作成は、担任、教科担当、保護者から様子を伺い、S S Wが見立てを行う。（天羽高）
- ・気になる生徒について、全職員が書き込むことができる共有フォルダを作成し、情報を共有している。必要に応じて、情報を整理して全職員に伝える。（袖ヶ浦高）
- ・中高生徒指導連絡会後、特別支援委員会のメンバーが中学校へ行き、情報を収集する。（館山総合高）
- ・入学者選考の配慮申請が出た生徒や特別支援学級に在籍していた合格者について、入学前に中学校の担当者に来校してもらい、個別の聞き取りを行う。（君津青葉高）

## 3 感想

- ・提案ではそれぞれの立場から連携や指導・支援についてお話を伺い、大変勉強になり、今後の特別支援教育についての取組の参考になった。グループ協議では、それぞれの先生が、「その子にどのような指導支援ができるか」という熱い思いを感じた。（教育委員会）
- ・高校側の現状（入学後に何が起きているのか、何が困っているのか等）を聞くことができ、大変勉強になった。（中学校）
- ・引継ぎにおいて、グレーゾーンの生徒の情報共有がやはり難しいと感じた。個人情報ということもあるが、小中高でどれだけ共有していくことができるかで、指導、支援のアプローチ方法が変わるのではないかと感じた。（中学校）
- ・中、特支、他の高校の様子が聞けて有意義であった。あらゆる校種間、専門機関との連携、情報交換の重要性を強く感じた。（高等学校）
- ・学校種にかかわらず、困り感のある子の学びのステージに合わせた指導・支援、とりまく人々の関わり方によって、育ちが変わってくることに改めて思いを深めることができた。（特別支援学校）